

Japanese Society of Oncology Pharmacy Practitioners

JSOPP

NEWS
LETTER Vol.03

第10回日本がん薬剤学会 (JSOPP) 学術大会 開催にあたって

一般社団法人日本がん薬剤学会 理事
大垣市民病院 薬剤部長
第10回日本がん薬剤学会(JSOPP)学術大会 大会長
吉村知哲



この度、日本がん薬剤学会 (Japan Society of Oncology Pharmacy Practitioners: JSOPP) では、第10回日本がん薬剤学会(JSOPP)学術大会を2018年5月13日(日)に東京コンベンションホールにて開催することとなりました。

今回は、「安全・安心ながん医療への貢献」をメインテーマとしました。抗がん薬の曝露対策だけでなく、近年、新たに登場した分子標的治療薬や免疫チェックポイント阻害薬なども取り上げ、副作用対策、最新のがん薬物療法など興味深いシンポジウムや教育講演などを計画させていただきました。主な内容です。

■シンポジウム

1. 曝露対策は大丈夫? ～閉鎖式器具を使用できない場合にどう対応する?～
2. 精神疾患・血液疾患・免疫疾患合併患者の抗がん薬治療をどのようにマネジメントするか!
3. 思春期・若年成人(AYA)世代のがん患者へのアプローチ ～注意すべき点・問題点は?～
4. あなたの患者の診方は大丈夫? その症状は副作用? ～ピットフォールに注意せよ!～

■教育講演

薬物動態学的知識に基づくスペシャル・ポピュレーションへのアプローチ ～殺細胞性抗がん薬から抗体製剤まで～

■教育セミナー(医療薬学会共催):がん専門薬剤師になるための50症例書き方

■ランチョンセミナー

1. 最新のがん薬物療法 ー肺がんー
2. 最新のがん薬物療法 ー大腸がんー
3. 最新のがん薬物療法 ー造血器腫瘍ー

一般演題は44題が集まりました。がん医療に携わる薬剤師を中心に、若手からがん専門薬剤師資格を有するスペシャリストまで満足していただけるような学術大会にしたいと考えております。会員の先生方のご参加をお待ちしております。

編集・発行:
一般社団法人日本がん薬剤学会(JSOPP)
事務局 株式会社コンパス内
〒113-0033
東京都文京区本郷三丁目3番11号NCKビル5階
TEL 03-5840-6131 FAX 03-5840-6130
office@jsopp.net http://jsopp.org/

◇特集◇ 第10回JSOPP学術大会開催 ◇

◆ シンポジウム1 ◆

曝露対策は大丈夫？
～閉鎖式器具が使用できない
場合にどう対応する？～聖路加国際病院
薬剤部 石丸博雅

2004年にNIOSHAlert (<https://www.cdc.gov/niosh/docs/2004-165/pdfs/2004-165.pdf>)が公表されてから抗がん薬曝露が注目され、本邦においても抗がん薬の曝露対策が進んできました。診療報酬においては、調製の場面では無菌調製処理料1に揮発性の高い3薬剤に対し閉鎖系器具の使用により150点が付与され、その後の改定で全ての抗がん薬で閉鎖系器具を使用することで180点算定できるようになりました。また、平成30年度の診療報酬改定では、投与の場面での閉鎖系器具の使用による診療報酬が要求されておりましたが、こちらは認められませんでした。

一方、米国では、2019年12月から施行されますUSP800では、調製の場面でのCSTD (Closed System Transfer Device) の使用を“should”、投与の場面では“must” という単語を用いてCSTDの使用を強く求めています。

シンポジウム1では、抗がん薬の調製および投与する際に強く使用が推奨されているCSTDの必要性和CSTDが使用できない場面で曝露のリスクを最小限にする工夫を皆さんと検討したいと思い、本シンポジウムを企画いたしました。

第一席目に、本邦の曝露対策合同ガイドラインの副編集長である野村先生にご登壇いただき、「曝露対策合同ガイドラインからみたCSTDの使用について」ご講演をいただく予定です。

第二席目、三席目には、先に記述しましたようにUSP800は投与の場面では“must”となっておりますが、CSTDが十分に使用できない施設あるいは髄注や皮下注などのようにCSTDが使用できない場面での曝露対策の工夫などを看護師である神戸市民医療セン

ター西病院 大路先生とがん研有明病院 花出先生よりご講演頂く予定です。第四席目に、伊勢赤十字病院 三宅先生より、調製時のCSTDの有無による抗がん薬による曝露調査結果と患者とその家族への曝露教育を看護師とどう協力していくか、説明の工夫などご講演頂く予定です。

当日はdiscussionの時間を設ける予定です。フロアの先生方と活発な意見交換を行いたいと考えております。

～ご案内～

会場:A会場

時間:10:15-11:45

座長:濱 宏仁

石丸博雅

演者:野村久祥

大路貴子

花出正美

三宅知宏

◇特集◇ 第10回JSOPP学術大会開催 ◇

◆ シンポジウム2 ◆

精神疾患・血液疾患・
免疫疾患合併患者の
抗がん薬治療をどのように
マネジメントするか岐阜大学医学部附属病院がんセンター
化学療法部門 飯原大稔

近年、分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬などの新規の機序を有する抗がん薬の開発が進み、がん治癒率の向上や患者の生活の質の向上に大きく貢献している。一方、がんと診断された患者の約半数は精神疾患を伴うことが報告されており、精神症状に対しても積極的な対応が求められる。また、がん治療の長期化に伴い、高齢者や複数の併存・合併疾患を持つ患者に対して化学療法を施行する機会は増加し、化学療法に対する薬学的管理は益々重要となっている。

複数の併存・合併疾患を持つ患者に対して化学療法を行う際には、投与の際の臨床検査値等の患者状態の確認に加えて、併存・合併疾患に対する投与禁忌・慎重投与の有無や併存・合併疾患に対する治療薬との相互作用の有無等も確認する必要がある。さらに、治療中に有害事象が発した場合に、発現した有害事象が抗がん薬の副作用によるものか、併存・合併疾患の悪化によるものかを見極めることが必要となる。

本シンポジウムでは、がん化学療法において問題となる精神疾患・血液疾患・自己免疫疾患患者における薬学的管理について、①静岡県立静岡がんセンター薬剤部の石川寛先生から、がんに併発する精神疾患の中で頻度の高いうつ病合併患者について、②大垣市民病院薬剤部の宇佐美英績先生から、貧血合併患者と血小板減少性紫斑病や播種性血管内凝固症候群に伴う血小板減少合併患者について、③名古屋大学医学部附属病院薬剤部の宮崎雅之先生より、殺細胞性抗がん薬、免疫チェックポイント阻害薬と

もに併用薬の相互作用や疾患への影響が問題となる関節リウマチ患者について、実際の薬学的な介入事例を交えて治療の問題点を明確化するとともに、治療戦略についてご講演をいただき、高いリスクを持つ患者のがん医療に関わる薬剤師に求められる役割について新たな知見を得る機会としたい。

～ご案内～

会場:B会場

時間:10:15-11:45

座長:杉浦伸一

飯原大稔

演者:石川 寛

宇佐美英績

宮崎雅之

◇特集◇ 第10回JSOPP学術大会開催 ◇

◆ シンポジウム3 ◆

思春期・若年成人(AYA) 世代のがん患者への アプローチ ～注意すべき点・問題点は？

埼玉医科大学総合医療センター
薬剤部 佐野元彦



シンポジウム3は、思春期・若年成人(AYA: Adolescents and Young Adults)のがん患者にスポットを当てた企画です。今回取り上げるAYAの年齢幅については世界的に統一された定義はなく、何歳から何歳までがAYA世代なのかということについては不明確です。本邦では一般的にこども医療費手当の支給がなくなる15歳から、介護保険制度が適用されない39歳までをAYA世代と呼びます。この世代のがん罹患数は約36,000人であり、全がん患者の3.8%を占めています。

25歳未満の若年世代では希少がんや造血器腫瘍が多く、25歳以上の年齢では、女性は子宮頸癌や乳癌、男性では大腸癌や胃癌が増えています。これらの患者群は遺伝性腫瘍が関与している可能性も高いことから、その医療や支援の在り方も課題です。

また、AYAのライフステージは、思春期では主に就学期に当たり、性的、精神的、社会的な自立に向けた発達段階で、経済的にも自立できておらず、意思決定の主体は親である世代となります。

一方、若年成人は就労期となり、精神的にも経済的にも自立し始め、意思決定を本人が行う世代となります。すなわち、AYA世代は、進学、恋愛、就職、結婚、出産など生活上の様々なイベントが集中する大切な時期であり、その時期にがんという難しい病気を抱えた患者群です。そのため、予期せぬ多くの精神的・身体的苦痛に直面し、同世代と比べて社会から取り残されてしまうという不安を抱きながら日々を送る世代であることを理解する必要があります。

そこで、本シンポジウムでは、AYA世代が社会生活を営む上で直面する問題である、妊孕性、アピアランス、就労の3つのテーマを取り上げ、3名のスペシャリストにご講演いただきます。この企画を通じて、AYA世代の現状を正しく理解し、世代固有の課題を持つ患者の気持ちに寄り添い、適切な情報提供ができる医療従事者へとスキルアップしていただければ幸いです。

～ご案内～

会場:C会場

時間:10:15-11:45

座長:谷村 学

佐野元彦

演者:日置三紀

野澤桂子

坂本はと恵

◇特集◇ 第10回JSOPP学術大会開催 ◇

◆ シンポジウム4 ◆

あなたの患者の診方は大丈夫？ その症状は副作用？ ～ピットフォールに注意せよ～

大垣市民病院
薬剤部 木村美智男



がん薬物療法の中心となる抗がん薬には、様々な副作用が認められます。昨今、がん薬物療法における副作用マネジメントには、副作用の予防と治療から抗がん薬の減量・休薬基準、患者指導における注意点までが記載されたハンドブックが大きく役立っています。しかし、何よりもまず、がん薬物療法時の症状が、抗がん薬による副作用であるかを判断することが重要になります。結果的には対症療法が同じであっても、今後のがん薬物療法において薬剤変更や投与量などの設計に大きな影響を与えるからです。

患者さんの中には、高齢の方も多く、また、糖尿病、高血圧や心疾患などを合併している方が少なくありません。がん専門薬剤師には、抗がん薬だけでなく、一般的な薬剤に関する薬理学的知識や合併症の病態に対する理解が求められます。そのため、がん薬物療法時にみられる症状の判断には、思いがけないピットフォール(落とし穴)が存在する場合があります。がんの病態と標準的治療法、薬物動態などの薬理学的知識、副作用対策の知識を備え、そのピットフォールを総合的に解析しながらより質の高い薬物療法を行うことで、がん専門薬剤師としての役割が発揮できるのではないのでしょうか。

本シンポジウムでは、「あなたの患者の診方は大丈夫？ その症状は副作用？ ～ピットフォールに注意せよ～」と題して、乳がん、大腸がん、胃がん、悪性リンパ腫の4つをテーマに実臨床において活躍されているがん専門薬剤師の先生方に、がん薬物療法施行中の様々な症状や訴えに対して薬剤師としてどのよう

に考えて医師と一緒にディスカッションしているのかについて解説していただきます。その中でも抗がん薬による副作用と思いきやそうでなかった事例；ピットフォールというかたちで取りあげています。本シンポジウムが、明日からのがん薬物療法に役立つことを祈念いたします。

～ご案内～

会場：B会場

時間：14:00－16:00

座長：和泉啓司郎
木村美智雄演者：東 加奈子
大橋養賢
川上和宜
渡部大介

◇特集◇ 第10回JSOPP学術大会開催 ◇

◆ 教育講演 ◆

薬物動態学の知識により、 薬剤師として自信を持って スペシャル・ポピュレーション に対応するために

群馬県立がんセンター
薬剤部 藤田 行代志



本教育講演は、腎機能または肝機能が低下した症例における抗がん薬の用法・用量の調節方法についての考え方や、話題の免疫チェックポイント阻害薬の臨床薬理について学ぶことを目的としています。

腎機能または肝機能が低下した症例については、演者が実際に出会った症例を紹介し、その対応を論理的に考えるために必要な知識を、エビデンスに基づいて紹介していきます。ただ単にデータを紹介するだけでなく、その解釈における注意点についても詳しく紹介する予定です。要旨は【Case】【Evidence】【Take Home Message】に分け、それぞれ詳しく記載いただきましたので、それだけでも十分勉強になりますが、ぜひ講演も聞いてより詳しく理解していただきたいと思います。要旨には重要な文献の引用も記載してありますので、講演後には原著を読んで、自分でも確認していただければ、さらに勉強になると思います。実例をベースとして具体的な対応方法を考えていきますので、日々の現場で同様の症例に出会った時には、すぐに応用可能な形で情報を共有できればと考えています。

免疫チェックポイント阻害薬については、現在承認されている薬剤がいずれもヒト化モノクローナル抗体製剤であるため、腎機能や肝機能の影響を受けにくいことを、各薬剤のエビデンスに基づいて紹介します。これまでの抗がん薬には珍しい固定用量による治療も出てきていますが、なぜそのようなやり方がとられているのか、その背景についてもご紹介いただけるものと思います。

本講演を通じて、皆さんが明日から腎機能あるいは肝機能が低下した患者さんに出会っても、自信を持って対応できるようになっていただければ望外の喜びです。ぜひ本講演に足をお運び下さい。

～ご案内～

会場:C会場

時間:14:00-16:00

座長:谷川原祐介

中西弘和

アドバイザー:藤田行代志

演者:原田知彦

青山 剛

合澤啓二

今村知世

◇特集◇ 第10回JSOPP学術大会開催 ◇

◆ 教育セミナー 共催：日本医療薬学会 ◆

がん専門薬剤師になる ための50症例の書き方

福岡大学筑紫病院
薬剤部 松尾宏一



優秀演題賞受賞者による「がん専門薬剤師になるための50症例の書き方」の開催に関して

平成18年に制定されたがん対策基本法では、医師やその他の医療関係者が、その対策の実施のために協力し、がんの予防に寄与するよう努めるとともに、がん患者に良質かつ適切ながん医療を行うよう努めなければならないとある。このような社会的要請の応えるため、日本医療薬学会のがん専門薬剤師認定制度は、がん薬物療法等について高度な知識や技術、臨床経験を備える薬剤師を養成し、国民の医療・健康・福祉に貢献することを目的に制定され、薬剤師としては、唯一医療法上広告が可能な専門性に関する資格として発足した。

がん専門薬剤師として認定されるためのハードルは高く、研修施設による5年間の研修と試験、さらに自らが関与したがん患者への薬学的介入実績50症例の提出等が義務付けられ、平成30年1月現在で、それらすべてを満たした者として578名が、がん専門薬剤師に認定されている。

症例報告の審査は、複数の審査員による提出症例の確認が細やかにおこなわれている。このような審査の過程で、中には、がん患者への薬学的な症例として不適切なもの、文章の書き方が不適切なために申請者の力量が認定委員に十分に伝わらないもの、さらに同じような薬学的な関与が多数含まれるものなどの問題点がある申請書類も少なくない。

そこで本セミナーでは、過去の認定審査において、優秀演題賞受賞を受賞した4名を演者に招き、がん患

者への薬学的な関与の仕方、それら関与を申請書類として仕上げるには、どのように表現して症例を完成しているかなど、経験者しか語ることができない洗練された書き方を紹介してもらおう場として、ご講演をいただく予定である。この教育セミナーが、がん専門薬剤師を目指す者、または既に認定されているが、今後の更新審査のために症例を書く必要がある者などに対して、何らかの気付きを示唆することができる場になればと考えている。

～ご案内～

会場：A会場

時間：14:00－16:00

座長：松尾宏一

池末裕明

演者：奥田泰考

五十嵐弘幸

浅野裕紀

網野一真

◆特集◆ ISOPP2018 参加報告◆

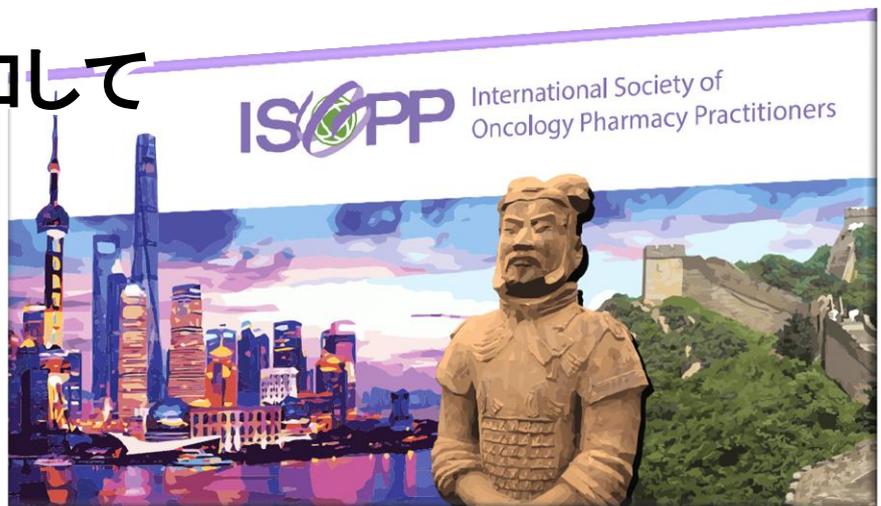
ISOPP2018 に参加して

ISOPP2018

日時: 2018年4月11日～13日

開催地: 上海

テルモ株式会社 中北香子



ター・聴講者が集まり、会場は国際色と熱気に包まれていました。

学会冒頭では、ISOPPの会長であるHarbans先生から、ISOPPの歴史と今後の展望が紹介されました。抗がん薬治療や危険薬の曝露防止対策の進化を改めて感じ、また、今後の本分野へのキーワードとして『モノクローナル抗体薬への対応』『調製のロボット化/自動化』『経口薬への曝露防止』といったテーマが掲げられました。学会全体を通して、これらのテーマに沿って、各国の現状や課題などが紹介され、議論されていました。

いくつか設けられた、危険薬の曝露対策に関するセッションでは、『IV Safe Handling』のテーマにおいて、日本の野村久祥先生(国立がん研究センター東病院)が登壇され、日本の曝露対策合同ガイドライン誕生のいきさつや内容を紹介されました。抗がん薬に係る、医師・看護師・薬剤師間の壁を取り払うガイドラインである…という紹介スライドへの反響は改めて大きく、まだ国内でのガイドラインが整備されていない国の参加者から大きな興味が寄せられていました。さらに、曝露対策に関して世界的な権威である Johan Vandembroucke先生からは、ISOPP Standardsの改訂に関するの情報提供もありました。2007年に出された Standardsの全面改訂ではなく、抗体薬の取り扱いや経口薬の曝露防止、メディカルサーベイランスの方法などの新しいテーマについての追加が検討されているようです。

アジアでの開催回ということもあり、最終日には、



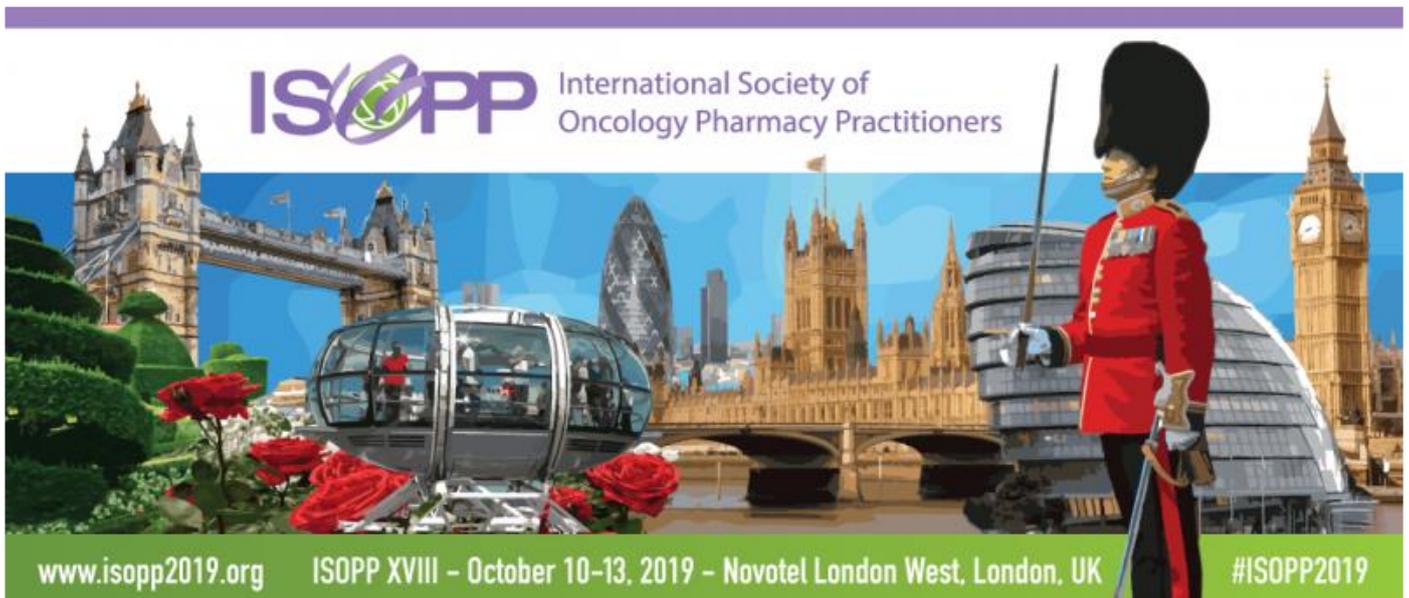
2018年4月11日(水)～13日(金)の3日間、上海の浦東にあるKelly Hallで開催された、ISOPP2018(学会長 Bo Yu先生:Fudan University/Shanghai Cancer Center)に参加して参りました。ISOPPはがん薬物療法に係る世界中の薬剤師を中心とする医療従事者や関連企業が、より質の高いがん治療、より安全ながん治療の実現を目指して意見を交わす国際学会で、JSOPPの母体でもある学会です。2006年のクアラ Lumpur(マレーシア)以来となるアジアでの開催である今回は、世界33か国から、326名の参加者が集いました。内訳ではやはりアジアからの参加者が多かった(73%)ものの、ヨーロッパ(9%)、アフリカ(7%)、オセアニア(5%)と、世界の各地から熱意溢れるプレゼン

◆特集◆ ISOPP2018 参加報告◆

Special Sessionとして、『日本と中国のがん薬物療法の現在・過去・未来』と題してのパネルディスカッションも設けられ、先述の野村先生に加え、加藤裕芳先生(東邦大学)、鈴木信也先生(国立がん研究センター東病院)、川澄賢司先生(国立がん研究センター東病院)がパネリストとして参加されました。現在、アジア全体での抗がん薬の扱いに関する国際的な取り組みは

されていませんが、こういった取り組みを通じて、アジアの中で曝露対策の推進役、まとめ役としての役割を担うことができるのではないかと思います。我々関連企業も、先生方に世界レベルでの情報をご提供し、安全ながん薬物療法の進化の一助となるよう、改めて気を引き締めるきっかけとなる機会でした。





海外学会発表奨励金制度

日本がん薬剤学会では、会員の国際的な学術研究活動への積極的な参加を促し、広く情報を共有する機会の創出を図ることを目的とし、International Society of Oncology Pharmacy Practitioners (以下、ISOPP) 主催の海外で開催するシンポジウムにおける発表者に対して奨励金制度を設けました。

ISOPP2019は2019年10月10日～13日にロンドンで開催されます。

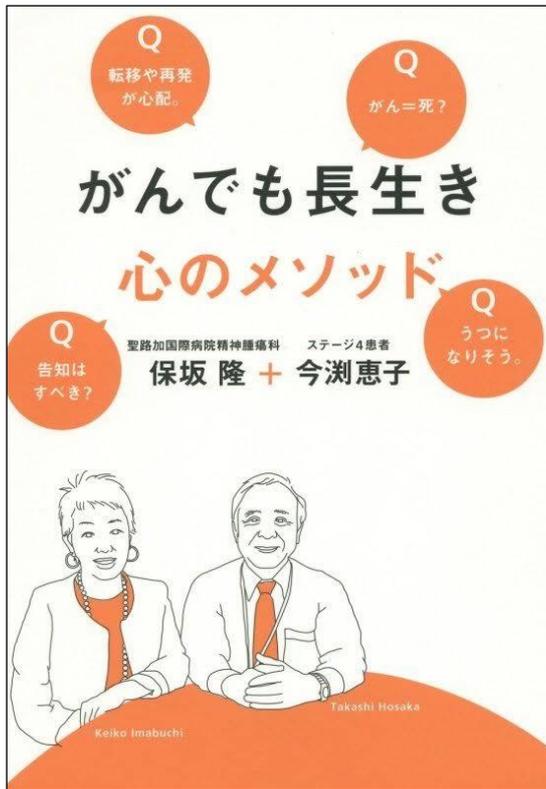
募集要項は詳細が決まり次第、ご案内いたします。

たくさんのご応募を期待しています。

(参考) ISOPP2019詳細は下記URLよりご確認ください。

<http://www.isopp.org/isopp-symposia/isopp-2019>

書籍紹介～第2回～



がんでも長生き 心のメソッド

著者：保坂 隆（聖路加国際病院）
今淵 恵子（ステージ4患者）

単行本:189ページ
出版社:マガジンハウス
言語:日本語
ISBN: 9784838728299

この本は、米国UCLAで学んだ最先端の精神腫瘍学を日本で実践されている聖路加国際病院 元リエゾンセンター長・精神腫瘍科部長 保坂 隆先生(現・保坂サイコオンコロジー・クリニック院長)と当時Stage4と診断された患者さんのやり取りをまとめた一冊です。

「がん発覚、私の人生終了ですか？」がんと告知された日から大変な治療に入り、治すためには仕方ないと思っても時には家族にやつ当たりしたり、落ち込んだりする患者さんも少なくありません。患者さんは、治療の事は病院で尋ねられるけど、精神的に辛いという話はなかなかしづらいものです。心のダメージを克服して、心の負担をやわらげることでがん寿命が

延びるという心のケア法を非常にわかりやすく書かれています。

この本を読んでいると、まるで自分自身も保坂先生にカウンセリングを受けているかのような錯覚を覚えます。「日本人の2人に1人はがんになる時代。でもがんでも死ぬのは10人に3人」をはじめ、「肉体的な痛みは99.9%コントロールできる」「がんは第2の人生の始まり」など、目から鱗の事実をQ&A方式でわかりやすく解説されており、「患者さんが今考えていること」、「患者さんの悩み」に対する保坂先生のお話や考えは、我々薬剤師の患者指導にも応用できることが多いと思います。

ご紹介いただいた先生
石丸 博雅 聖路加国際病院 薬剤部 アシスタントマネジャー
日本医療薬学会認定がん専門薬剤師

第11回日本がん薬剤学会(JSOPP)学術大会 開催日程が決まりました！

次世代のがん医療の実践のために
~洗練される臨床薬剤師~

JSOPP
第 11 回
日 本 が ん
薬 剤 学 会
学 術 大 会

大会長 松尾 宏一 (福岡大学薬学部)

日程 2019年5月12日(日)

会場 コンベンションホール
AP浜松町
東京都港区芝公園2丁目4-1 デザイン芝パークB館地下1F

連絡事務局 株式会社コンパス内
〒113-0033 東京都文京区本郷三丁目3番11号 NCKビル5階
Phone: 03-5840-6131 FAX: 03-5840-6130
E-mail: 2019jsopp@jsopp.org

• JR山手線・京浜東北線「浜松町駅」北出口より徒歩約7分
• 都営浅草線・大江戸線「大門 駅」A6出口より徒歩約3分
• 都営三田線 「定公薬駅」A3出口より徒歩約3分
• モノレール 「浜松町駅」より徒歩約7分

主催：(一社)日本がん薬剤学会 (JSOPP)

詳細は決まり次第、順次ご案内いたします。

抗悪性腫瘍剤
ランタ 10mg/20mL
 25mg/50mL
 50mg/100mL
オキサリプラチン

抗悪性腫瘍剤
動注用アイエーコール 50mg・100mg
シスプラチン製剤

抗悪性腫瘍剤
カルセド 注射用 20mg・50mg
フルオロウラシル塩酸塩

抗悪性腫瘍剤
ヒルビビ 注射用 10mg・20mg・30mg
エトキシファン

抗悪性腫瘍剤
ラステッド Sカプセル 25mg・50mg
エトキシファン

抗悪性腫瘍剤
ラステッド 錠 100mg/5mL
エトキシファン

抗悪性腫瘍剤
プレオ 注射用 5mg・15mg
フルオロウラシル

抗悪性腫瘍剤
ハスタデブ カプセル 10mg・30mg
フルオロウラシル

抗悪性腫瘍剤
オタイン 錠 125mg
フルオロウラシル

抗悪性腫瘍剤
フェアストン 錠 40・60
フルオロウラシル

抗悪性腫瘍剤
バクワタキセル 注 30mg/5mL
 バクワタキセル製剤

抗悪性腫瘍剤
カルボプラチン 点滴静注液 50mg・150mg・450mg [NK]
カルボプラチン

抗悪性腫瘍剤
イムノブラダ 膀注用 80mg・40mg
イムノブラダ

抗悪性腫瘍剤
イリノテカン 塩酸塩 点滴静注液 40mg [NK]
 100mg [NK]
イリノテカン

抗悪性腫瘍剤
エヒルピシ 塩酸塩 注射用 10mg・50mg [NK]
エヒルピシ

抗悪性腫瘍剤
エヒルピシ 錠 注射液 10mg・5mg
 50mg/25mL [NK]
エヒルピシ

抗悪性腫瘍剤
ドキルピシ 塩酸塩 注射用 10mg・50mg [NK]
ドキルピシ

抗悪性腫瘍剤
ドセウス 静注液 10mg・40mg
ドセタキセル

抗悪性腫瘍剤
エキセメスタン 錠 25mg [NK]
エキセメスタン

抗悪性腫瘍剤
アナストロゾル 錠 1mg [NK]
アナストロゾル

抗悪性腫瘍剤
イマチニブ 錠 100mg [NK]
イマチニブ

抗悪性腫瘍剤
タキソイド系抗悪性腫瘍剤 20mg/1mL
ドセタキセル 点滴静注液 80mg/4mL [NK]
ドセタキセル

抗悪性腫瘍剤
ドセタキセル 点滴静注 20mg/1mL [ニプロ]
ドセタキセル

抗悪性腫瘍剤
オキサリプラチン 点滴静注液 50mg・100mg・200mg [NK]
オキサリプラチン

抗悪性腫瘍剤
アロマト 錠 錠剤 / 錠剤 / 錠剤 / 錠剤
レトロゾール 錠 2.5mg [NK]
レトロゾール

抗悪性腫瘍剤
ピカルタミド 錠 80mg [NK]
ピカルタミド

抗悪性腫瘍剤
ピカルタミド OD錠 80mg [NK]
ピカルタミド

抗悪性腫瘍剤
ゲムシタビン 点滴静注液 200mg・1g [NK]
ゲムシタビン

抗悪性腫瘍剤
ゲムシタビン 点滴静注液 200mg/5mL [NK]
ゲムシタビン

抗悪性腫瘍剤
エヌケ エスワン 配合カプセル T20・T25
エヌケ

抗悪性腫瘍剤
エヌケ エスワン 配合錠 T20・T25
エヌケ

抗悪性腫瘍剤
エヌケ エスワン 配合OD錠 T20・T25
エヌケ

抗悪性腫瘍剤
ホリナート 錠 25mg [NK]
ホリナート

抗悪性腫瘍剤
デモンロミド 錠 20mg・100mg [NK]
デモンロミド

抗がん薬の製品ラインナップ

※注意・医師等の処方箋により使用すること

NK
 Speciality, Biosimilar & Generic

資料請求先 **日本化薬株式会社**
 東京都千代田区丸の内二丁目1番1号
 日本化薬医薬品情報センター 日本化薬 医療従事者向け情報サイト
 0120-505-282 (フリーダイヤル) <https://mink.nipponkayaku.co.jp>

※効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

薬価基準記載

日本ケミファのがん領域注射剤



抗悪性腫瘍剤 毒薬・処方箋医薬品^{注)}

オキサリプラチン点滴静注液

50mg/10mL・100mg/20mL・200mg/40mL [ケミファ]

〈オキサリプラチン点滴静注液〉



タキソイド系抗悪性腫瘍剤 毒薬・処方箋医薬品^{注)}

ドセタキセル点滴静注

20mg/1mL・80mg/4mL [ケミファ]

〈ドセタキセル注射液〉



注) 注意—医師等の処方箋により使用すること
 効能又は効果、用法及び用量、警告、禁忌を含む使用上の注意等は、
 製品の添付文書をご参照下さい。

製造販売元: ナガセ医薬品(株)
 販売元(資料請求先):
日本ケミファ株式会社
 東京都千代田区岩本町2丁目2-3

H28-11

BD ファシール™ 遮封式薬剤移注システム

入れない、出さない。
BD ファシール™ システムが、CSTDです。

2018年1月、
日本で初めて閉鎖式薬剤移注システムとして、
薬事承認(クラスII)を取得しました。

販売名: BD ファシール™ 遮封式薬剤移注システム
薬事承認承認番号: 23000BZX00026000



販売名: BD ディスボーザル注射器
製造販売届出番号: 0781X00003000001

製造販売元
日本ベクトン・ディッキンソン株式会社
〒960-2152 福島県福島市土船字五反田1番地
本社: 〒107-0052 東京都港区赤坂4-15-1 赤坂ガーデンシティ
カスタマーサービス ☎ 0120-8555-90 FAX: 024-593-3281
bd.com/jp/

© 2018 BD. BD、BDロゴおよびその他の商標はBecton, Dickinson and Companyが所有します。



学会員募集のお知らせ

一般社団法人日本がん薬剤学会(JSOPP)では、本学会の活動に賛同していただける会員を募集しています。

謹啓

日本がん薬剤学会(Japanese Society of Oncology Pharmacy Practitioners:JSOPP)は、2009年にInternational Society of Oncology Pharmacy Practitioners(ISOPP)に連携する組織として設立され、2012年には一般社団法人化いたしました。

本学会は、最新のがん薬剤学領域に関する情報交換ができる場を提供することで、がん薬物療法に関わる実務者、研究者の資質向上を図り、がん患者の生活の質の向上、すなわち、高質で、安心・安全ながん薬物療法の提供を目指して活動してまいりました。

がん患者の数は年々増加傾向にあり、チーム医療の重要性が問われる中、本学会が、職種を問わず、がん薬物療法にかかわるすべての実務者および研究者の情報交換の場となり、高質ながん治療の提供につながることを願ってやみません。

◆事業内容

- ・ 学術大会の開催
- ・ 抗悪性腫瘍調製ガイドラインの策定
- ・ がん薬剤学会領域における多施設共同研究の推進
- ・ がん薬剤学領域における実務家、研究者の教育
- ・ 関連学術団体との連携および協力
- ・ その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

薬剤師だけでなく、医師、看護師、栄養士など職種を問わず、がん薬物療法に関わるすべての実務者、及び研究者の皆さまに、本学会へ御入会いただきますようお願い申し上げます。

謹白

一般社団法人日本がん薬剤学会(JSOPP)
代表理事 濱 敏弘

会員の申込は、
本学会のホームページ (<http://jsopp.org/>) より随時受け付けています。
なお、年会費は、個人5,000円、賛助会員1口50,000円(1口以上)です。